

『対決と和解への条件』 ～ 『過去を知らずして、未来は語れない』 ～

筆者は、2024 年 12 月 19 日【東京女子大学】の理事会に赴いた。キャンパスを散策し 11 号館の図書室に、筆者の本『教会でも がん哲学外来カフェを 始めよう』（2019 年 日本キリスト教団出版局：画像）も置いてあり大いに感激した。

今回、【検事総長退任後に、新渡戸稲造（1862-1933）が初代学長であった東京女子大学理事長に就任された原田明夫（1939～2017）】と一緒に、2000 年『新渡戸稲造 武士道 100 周年記念シンポ』（国際連合ウータントホール）、2002 年『新渡戸稲造生誕 140 年』（伊香保）、2003 年『新渡戸稲造没後 70 年』（札幌）、2004 年『新渡戸稲造 5000 円札さようならシンポ』（国際連合ウータントホール）を企画したのが甞ってきた。【札幌(2003 年)でのシンポジウム『なぜ、今、新渡戸稲造なのか？ ～ 遠い過去を知らずして、遠い未来は語れなし ～』では、原田明夫氏は『新渡戸稲造に学ぶ・和解と共生への条件』、筆者は、『新渡戸稲造との出会い』を講演した】（画像）

原田明夫氏との出会いは 1999 年に遡る。筆者の新渡戸稲造について書いた文章を読まれた原田明夫氏から電話があり、原田明夫氏ご夫妻、筆者と wife の 4 人で学士会館で会食した。原田明夫氏は盛岡地検の検事正時代に、地元南部藩出身の新渡戸稲造著『武士道』に魅かれ、研究論文を書き上げられた。それが 2000 年の『新渡戸稲造 武士道 100 周年記念シンポ』記念シンポに繋がった。

一番の思い出は、月 1 回 6:30pm ～ 原田明夫氏の自宅で、朋子夫人の手料理のカレーをいただきながら『21 世紀の知的協力委員会』を開催したことである。原田明夫氏の論文『対決と和解への条件 ～ 新渡戸稲造博士に学ぶ ～』では、以下の 4 項目に新渡戸稲造の考え・行動を集約されている。

- (1) 賢明な寛容さ (the wise patience)
- (2) 行動より大切な静思 (contemplation beyond action)
- (3) 紛争や勝利より大切な理念 (vision beyond conflict and success)
- (4) 実例と実行 (example and own action)

筆者にとって『原田明夫氏との人生の邂逅は貴重な宝』である！

# 教会でも がん哲学外来カフェを 始めよう

Chris Hiron  
植野興夫 編集



**苦悩に寄り添い共感する場が、  
圧倒的に不足しています**

私の国は人口約3000万人に約100万の教会があります。そのためには日本全国に7000のカフェが必要です。それは驚くほど、日本全国にある教会の数でもあるのです。

「がん哲学外来」  
創設者  
植野興夫氏が  
おくる

日本キリスト教出版協議会

# なぜ、今、 なのか？

新渡戸稲造



「なぜ、今、なのか？」という問いは、私たちの時代を生きる者にとって、最も切実な問いである。本書は、新渡戸稲造の著作の中から、この問いに答えるための材料を提供する。稲造は、明治維新の激動の中で、西洋文化を学び、日本に紹介した。その経験から、彼は「なぜ、今、なのか？」という問いを、日本の未来のために問いかけた。本書は、稲造の著作の中から、この問いに答えるための材料を提供する。稲造は、明治維新の激動の中で、西洋文化を学び、日本に紹介した。その経験から、彼は「なぜ、今、なのか？」という問いを、日本の未来のために問いかけた。本書は、稲造の著作の中から、この問いに答えるための材料を提供する。

稲造の著作の中から、この問いに答えるための材料を提供する。稲造は、明治維新の激動の中で、西洋文化を学び、日本に紹介した。その経験から、彼は「なぜ、今、なのか？」という問いを、日本の未来のために問いかけた。本書は、稲造の著作の中から、この問いに答えるための材料を提供する。